

松山大学
増田 豊

松山大学における英語教育

ENGLISH LANGUAGE EDUCATION AT MATSUYAMA UNIVERSITY

1 はじめに

本学では、専任の外国語担当教員は、それぞれ各学部にも所属しながら、所属学部を問わず、全学の外国語教育に当たっている。従来は全学共通の外国語カリキュラムによって、英語8単位、第2外国語(独・仏・西・中のいずれか)6単位を必修としているが、「大綱化」以降、カリキュラムの設置は各学部の専決事項となっているため、英語部会およびそれを含む外国語部会は、あくまでカリキュラムの立案・提供の母体としての機能をはたしているに過ぎない。しかし、担当者の意向や都合をまったく無視して各学部が独自の外国語カリキュラムを作成することは事実上不可能である。結局、担当者グループと各学部の改訂案のすり合せが必要であり、これに多大の労力と時間が費やされた。

経営学部が、いち早く外国語グループの改訂案を取り入れて、平成5年四月から改訂カリキュラムを実施し、つづいて経済学部、人文学部が、ようやく平成6年度から実施に入ったばかりである。なお、法学部においては、継続審議となっている。

2 共通外国語カリキュラム

言語文化科目群の狙い

言語文化科目群は、《国際社会で通用する人材の育成》を基本理念とし、その2本の柱として《実践的外国語運用能力》と《異文化理解を通しての多角的な視点》を身につけさせることを狙いとしている。

具体的には次の(1)～(5)の特色を通じて、これらを実現する。

- (1) 2年次以上での選択制による小人数教育
- (2) 多様な外国語科目の設置、学習機会の拡充
- (3) 言語技能別に特徴づけた科目の設置
- (4) ことばを大きな枠組みで捕える科目の設置
- (5) 各外国語を基礎とした国際人養成の仕上げを行う、言語文化ゼミの設置

松山大学は、従来外国語教育に大きな力を注いできた。入学試験での英語の配点、外国人特別講師の雇用、各種海外語学研修プログラムの設置、またAV施設の充実などがその表われである。そして今後一層の国際化を考えると、実践的な外国語運用能力を習得する必要性は高まりこそすれ、少なくなることは考えられない。この実際に使える運用能力養成のための特色が言語文化科目群にはいくつかある。

そのうちの一つは2年次以上での小人数教育とバラエティーに富んだ科目の設置である。言語文化科目群では、従来必修であった2年次の外国語履修を選択とする(学部によって多少異なる)。そして余裕のできた教授スタッフによって言語文化専門科目(2～4次)、言語文化講義科目(1～4年次)、言語文化演習科目(3、4年次、経営のみ2～4年次)を開講する。従来、外国語のクラスは1、2年次全学生の必修のため比較的大人数であったり、またせっかく学んでも3、4年次と引き続いて学習する場がなかったことで、実践的運用力が必要となる就職において役に立ちにくいなどの問題点があった。しかし、この応用科目を履修することで、外国語学習に本当に意欲のある学生は小人数でしかも卒業直前まで

9月10日(土) 事例研究第6室(本館313)

外国語に触れることができる。さらに応用科目は全般的な運用能力を伸ばすものから、各種検定試験の対策など学生のニーズに合うように巾広く設置されている。

また、言語文化講義科目は人間と人間の意思疎通の手段である言語と、人間をさらに広い意味で規定する社会や文化の学習を目的とする。ここでは外国語担当者のほぼ全員がそれぞれの言語特有の視点や問題点、学習方法などを講義し、国際人に必要不可欠な資質である多角的なものの見方、考え方の初歩を学習させる。

そして3、4(経営学部は2~4)年次に開講される言語文化ゼミはそれまでに学んできた外国語の運用能力の仕上げと、その言語を通して文化・社会・人間の理解をさらに深め、国際社会で通用する人材の育成を目的としている。

3 共通外国語カリキュラムにおける英語教育カリキュラム

1) 言語文化基礎科目

〔英語基礎科目〕(英語Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ)…週1回半期(=30時間)1単位

これまでの知識をベースにし、特に情報受容技能の獲得を目標とする。これらは後述である。また、たとえある言語を1年次の基礎科目で終える学生であっても、情報受容技能は長期間、教育効果の維持が期待できるので、将来当該言語で情報を取り入れ、処理する際に必要となる最低限の力を持ち続けることが可能である。

2) 言語文化専門科目

〔英語口頭科目〕…週1回通年(=60時間)4単位

* オーラルイングリッシュⅠ

リスニング・スピーキング能力を伸ばすことを目標とした、ネイティブ・スピーカーによる週2回の少人数クラス。内容的には中級。選抜試験あり。

* オーラルイングリッシュⅡ

リスニング・スピーキング能力を伸ばすことを目標とした、ネイティブ・スピーカーによる週2回の少人数クラス。内容的には上級。選抜試験あり。

* English for International Business

実社会にでて役立つ英語による実務的交渉能力などを、特に聞くこと、話すことを中心に身につけさせることを狙いとする。ネイティブ・スピーカーによる週2回の少人数クラス。

* English through Video

映画やビデオを使い、生きた英語を学ぶ。ネイティブ・スピーカーによる週2回の少人数クラス。

〔言語文化上級科目〕…週1回半期(=30時間)2単位

言語文化基礎科目において学習した基礎知識、あるいは受容技能をさらに伸ばすと共に、少人数クラスにおいて、話すこと、書くことという伝達技能の学習にも重点を置く。

* 英語プロフィシェンシーⅠ

英検対策。目標は2級合格。近年の試験の傾向を分析し、その対策を教授する。授業では模擬テストの実施やその解答と解説、また自宅での各個人の塾点を補強するための方法の指導なども行う。

* 英語プロフィシェンシーⅡ

TOEIC, TOEFL試験対策。学生海外語学研修助成制度があり、その応募には

TOEIC/TOEFLが必要である。

* 英文法クリニック

コミュニケーションの成立に欠かすことのできない文法の核を正確に身につけさせ、運用できるようにすることをねらう。

* 海外生活英語

外国を旅行中、道に迷ったり、病気になった時にどのような表現を使って対処すれば良いのかなど、実際の場面に即して正確な意志伝達ができる英語を学ぶ。

* 英語ライティング

英語を使って考えや情報を性格に、しかも適切に伝達するには、どのように書けばよいのかを学ぶ。単に日本語を英語に書き換えるといった和文英訳ではなく、単文以上のレベルで英作文をとらえていく。

* マスメディア英語

英語圏における、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ等といった生きた教材をもとに、性格にしかも早く情報を把握できる能力を養う。

* 英語ペーパーバック・リーディング

英語圏の作家達によって英語で書かれた文学作品を通じて、単に和訳する技能だけでなく、速読や要約する力を養う。

* English for Cross-Cultural Communication

海外を舞台に活躍する国際人となるためには、異文化間の壁を越えた正しい相互理解と、取引や交渉をスムーズに成立させるのに十分な外国語運用能力が要求される。この異文化理解と実用的なコミュニケーション能力を、ネイティブ・スピーカーの指導のもとに養成する少人数クラス。

3) 言語文化講義科目…週1回通年(=60時間)4単位

ことばを様々な角度から考える。それぞれの言語の担当者が各研究分野の中の言語特有の視点や問題点などを、1、2回完結のオムニバス形式で多角的に講義する。学習経験のない言語にも関心、興味をもたせると共に、ことばの持つ不思議さに触れ、またことばを科学的にとらえることなどを学ぶ。

* 「ことばと人間」、「ことばと科学」

4) 言語文化演習科目…週1回通年(=60時間)4単位

4 各学部(学科)カリキュラムにおける外国語単位数

1) 経済学部 必修…言語文化基礎科目より2言語選択(各4単位、計8単位)
選択…24単位まで選択可能

2) 経営学部 必修…言語文化基礎科目より2言語選択(各4単位、計8単位)
選択…16単位まで選択可能

3) 人文学部 必修…独、仏、中より1言語選択(8単位)
(英・英) (総合英語Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ計8単位は学部基礎科目として必修)
選択…14単位まで選択可能

4) 人文学部 必修…言語文化基礎科目より言語選択(8単位)
(社会) 言語文化専門科目/言語文化演習科目より1言語(4単位)
選択…16単位まで選択可能

9月10日(出) 事例研究第6室(本館313)

1 外国語担当教員の所属(配置)

各学部に分属しているが、所属学部に関係なく、全学の外国語教育に当たっている。

2 共通外国語カリキュラム

言語文化科目群の狙い

言語文化科目群は、《国際社会で通用する人材の育成》を基本理念とし、その2本の柱として《実践的外国語運用能力》と《異文化理解を通しての多角的な視点》を身につけさせることを狙いとしている。

具体的には次の(1)～(5)の特色を通じて、これらを実現する。

- (1) 2年次以上での選択制による小人数教育
- (2) 多様な外国語科目の設置、学習機会の拡充
- (3) 言語技能別に特徴づけた科目の設置
- (4) ことばを大きな枠組みで捕える科目の設置
- (5) 各外国語を基礎とした国際人養成の仕上げを行う、言語文化ゼミの設置

3 共通外国語カリキュラムにおける英語教育カリキュラム

- 1) 言語文化基礎科目……………週一回半期(=30時間) 1単位
英語Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ

2) 言語文化専門科目

- (1) 英語口頭科目……………週一回通年(=60時間) 4単位
オーラルイングリッシュⅠ
オーラルイングリッシュⅡ
English for international Business
English through Video

- (2) 言語文化上級科目…週一回通年(=60時間) 4単位
英語プロフィシエンシーⅠ/英語プロフィシエンシーⅡ/英文法クリニック/海外生活英語/
英語ライティング/マスメディア英語/英語ペーパーバック・ライティング/English for
Cross-Cultural Communication

- 3) 言語文化講義科目……………週一回通年(=60時間) 4単位
言葉と人間/言葉と科学

- 4) 言語文化演習科目……………週一回通年(=60時間) 4単位

4 各学部(学科)カリキュラムにおける外国語単位数

- | | | |
|------------------|----------|--|
| 1) 経済学部 | 必修
選択 | 言語文化基礎科目より2言語選択(各4単位、計8単位)
24単位まで選択可能 |
| 2) 経営学部 | 必修
選択 | 言語文化基礎科目より2言語選択(各4単位、計8単位)
16単位まで選択可能 |
| 3) 人文学部
(英・英) | 必修
選択 | 独、仏、中より1言語選択(8単位)
(総合英語Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ計8単位は学部基礎科目として必修)
14単位まで選択可能 |
| 4) 人文学部
(社会) | 必修
選択 | 言語文化基礎科目より言語選択(8単位)
言語文化専門科目／言語文化演習科目より1言語(4単位)
16単位まで選択可能 |
| 5) 法学部 | 必修 | 英語(第1外国語)(8単位)
独／仏／中／西／韓より1言語(第2外語)(6単位) |

9月10日(土) 事例研究第6室(本館313)

1. 言語文化科目群

